

仏様のおはなし新シリーズ第80集 「不能遠観」

京都市内にある浄土宗の四つの本山の一つであります通称「黒谷(くろだに)さん」として親しまれています金戒光明寺(こんかいこうみやうじ)を訪ねた時のことです。ここは、松平容保(まつだいらかたもり)率いる会津藩の幕末維新における本陣であり、新撰組と関わりのあるお寺であります。このお寺の山門を登って右側に、江戸時代に建立された阿弥陀堂がございまして、内部の左側にお釈迦さまのことばで有名な「国豊民安、兵戈無用」の文字がニメートルを越す長さの柱に彫刻されております。古さから言います、何百年の時を経たものと思われれます。真宗とおなじくお釈迦さまの教えをよりどころとする浄土宗の方々のお気持ちがこの古い柱にあらわされてるようで、嬉しくなりました。

昨今、世界のいたるところでいつ大きな戦争に向かつていってもおかしくない緊迫した状況が続いています。もちろん日本を取り巻く状況も例外ではありません。一九四五年の敗戦で日本は、二度と戦争の道を選ばないことを憲法の柱として決定しました。先の戦争による犠牲があまりに大きく、それを踏まえての選択でした。そのおかげで戦後七十年間以上ひとりとして戦争で亡くなることのない「平和」を築いてきました。しかし今また、この憲法にうたわれて 있습니다「戦争放棄」ということが現実味がないという理由でこわされようとしています。

お釈迦さまは観無量寿経というお経の中で、「汝は是凡夫なり？未だ天眼を得ざれば遠く観ること能はず」と教えられます。私たちはいつも目の前の物事にまどわされて、遠くのことを思い描くことができないうことなのです。信心をいただくということは、未来を見わたす目を持つことです。戦前のような今こそ、仏さまの教えをいただく私たちは、どんな状況においても兵戈無用という教えを中心にして、現実の今を見つめ一歩一歩、非戦の願いをもつて生きてゆくことの大切さを思わされます。

今回の担当は、光円寺の円日耕也でした。

